

地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム報告



新しい時代の地域医療 ～わたしたちの“わ”を活かそう～

令和元年11月30日（土）と12月1日（日）の2日間、東京都千代田区の東京グリーンパレスにおいて、住民・行政・医療関係者等を一堂に会し、「地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム2019」を開催しました。

今回も北は宮城県から南は宮崎県まで65名の方にご参加いただき、無事に全日程を終えることができました。

1. 開会挨拶

世話人を代表し、松村正巳氏（自治医科大学地域医療学センター長）から開会の挨拶をいただきました。



2. 趣旨説明・今回のテーマについて

趣旨説明では、「10年間の足跡と、これから」と題し、藤本幸男氏（青森県立保健大学理事・事務局長）に本シンポジウムの経緯、目的等についてご説明いただきました。その後、今回のシンポジウムのテーマについて、福田政憲氏（宮崎県北の地域医療を守る会事務局長）にご説明いただき

ました。



3. 活動事例報告

今回の活動事例報告では、矢壁敏宏氏（雲南市立病院ボランティアの会）の進行のもと、徳島県美馬市（木屋平地区）の方々より「中山間部の取り組み」について、千葉県千葉市（東千葉地区）の方々より「都市部の取り組み」についてご発表いただきました。





4. グループワーク

事前アンケートにて5つのテーマから興味のあるテーマを選んでいただき、その結果をもとに、10グループ（1グループ6～8名）に分かれ、あらかじめ指名させていただいたファシリテーターがまとめ役となり、各グループがそれぞれのテーマでグループワークを行いました。

今回は、「住民の参加・連携でつくる地域のカタチ」と題し、グループごとにテーマに沿った市民参加の活動組織を考えていただきました。

まず、福田政憲氏（宮崎県北の地域医療を守る会事務局長）より、グループワークの進め方について説明がありました。



その後、配布したシート A に参加者それぞれが『〇〇である私はこういう理由でこのテーマを希望しました』という内容を記入し、グループ内で順番に自己紹介とともに発表していただきました。



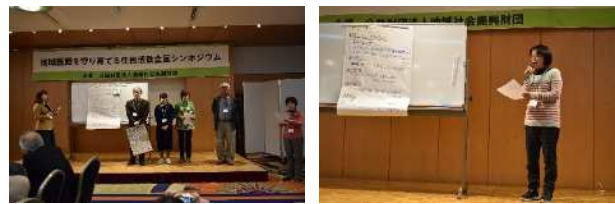
グループ内でシート A の発表が終わると、発表の事例を活かしながら、活動組織の概要を作成していきました。会の名称はどうか、会の目的は何か、どんな活動を行うか等、実際にある地域や架空の地域を想定しながら考えていただきました。



5. 全体会

全体会では、小松憲一氏（自治医科大学地域臨床教育センター特命助教）の進行のもと、各グループ10分という設定で、グループメンバー全員が役割を持ち、活動組織の「設立記者会見」を行いました。どのグループも内容がよく考えられており、また発表方法にも工夫が見られ、会場が笑顔でいっぱい発表会となりました。

最後は参加者全員の投票により選ばれた1位から3位のグループがステージに上がり、会場から温かい拍手が送られました。



6. 講評および閉会挨拶

松村正巳氏から全体の講評を、小谷和彦氏（自治医科大学地域医療学センター副センター長）から閉会の挨拶をいただきました。その後、参加者全員で写真撮影（冒頭の全体写真）を行い、無事に2日間の日程を終えました。